

## 2025 年度学生行動調査結果報告

### 1. 目的

本報告書は、文部科学省が実施する「全国学生調査」の設問を取り入れた学生行動調査の結果を分析したものである。全国学生調査に準拠し、次の項目について分析を行った。

- ① 授業の活動実態
- ② 大学で役立った経験
- ③ 大学養育で身についた知識や能力
- ④ 大学教育の振り返り
- ⑤ 1 週間の生活時間

### 2. 調査対象

調査対象は、日英トラックの学部 2～4 年生 76 名である。

### 3. 調査方法

調査は Google フォームによるオンラインアンケート形式で実施した。調査期間は 2025 年 9 月 1 日から 9 月 30 日までとし、全学生にポータルサイトおよび通知メールを通じて回答を依頼した。回答は匿名で収集し、個人が特定されないよう配慮した上で集計・分析を行った。

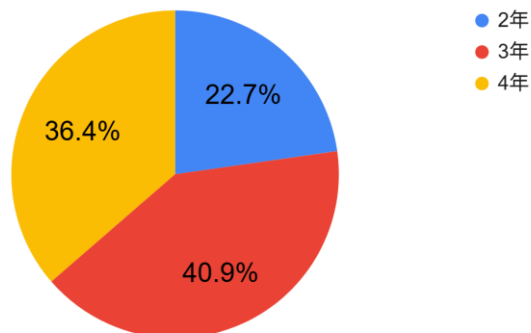
### 4. 回答状況

回答者数は 22 名（回答率 28.9%）であった。回答者の内訳は以下のとおりである。なお、文部科学省が実施した令和 6 年度（2024 年度）「全国学生調査」の結果によれば、小規模大学（学生数 500 人未満）の平均回答率は 27.2%であり、本学の回答率はこれと同程度である。

#### ① 学年

- 学部 2 年生：5 名
- 学部 3 年生：9 名
- 学部 4 年生：8 名

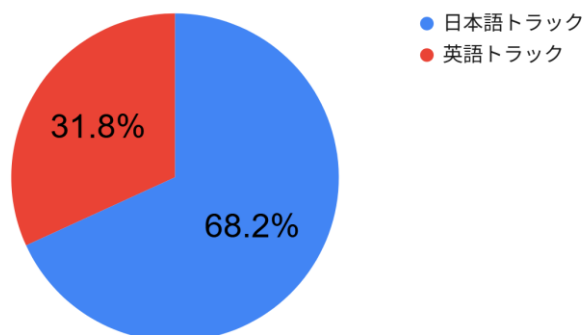
学年



#### ② トラック

- 日本語トラック：15 名
- 英語トラック：7 名

カリキュラム



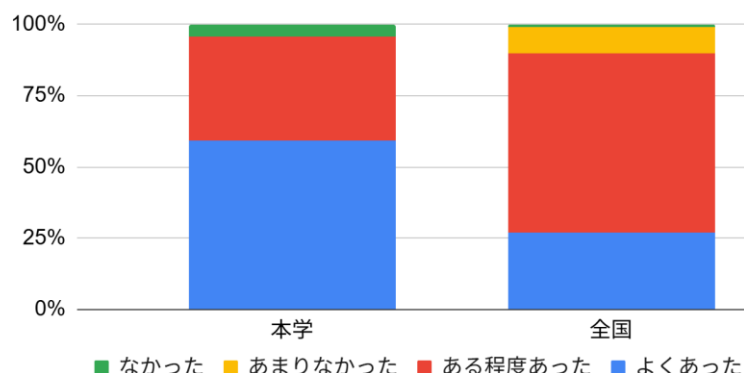
## 5. 設問ごとの回答結果（令和6年度全国調査との比較）

### ① TCUで受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか？

青字：+15pt 以上

赤字：+20pt 以上

理解がしやすいように教え方が工夫されていた



全国

よくあった：26.8%

ある程度：63.2%

合計：90.0%

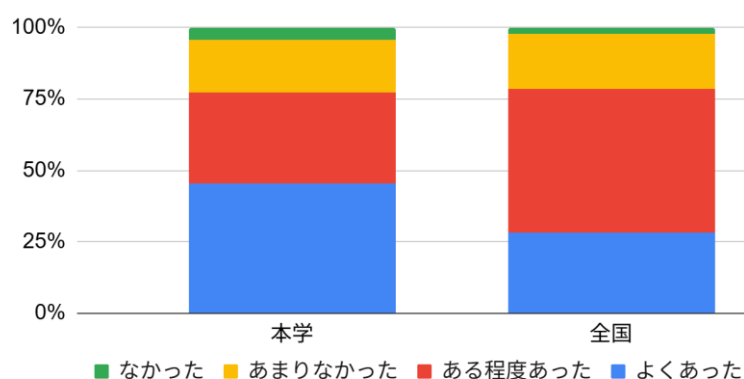
本学

よくあった：59.1% (+32.3pt)

ある程度：36.4%

合計：95.5% (+5.5pt)

予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される



全国

よくあった：28.0%

ある程度：50.5%

合計：78.5%

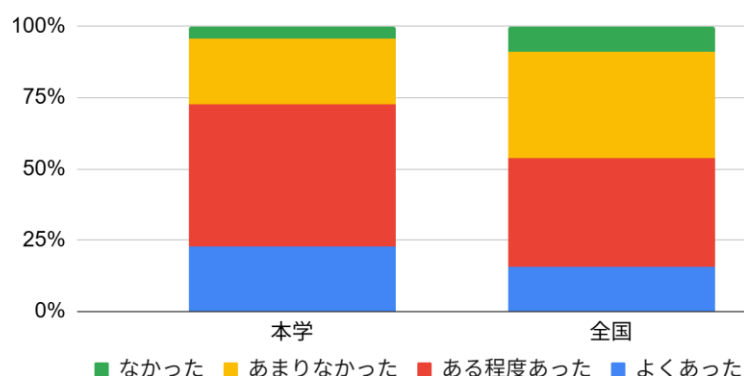
本学

よくあった：45.5% (+17.5pt)

ある程度：31.8%

合計：77.3% (-1.2pt)

課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される



全国

よくあった：15.5%

ある程度：38.3%

合計：53.8%

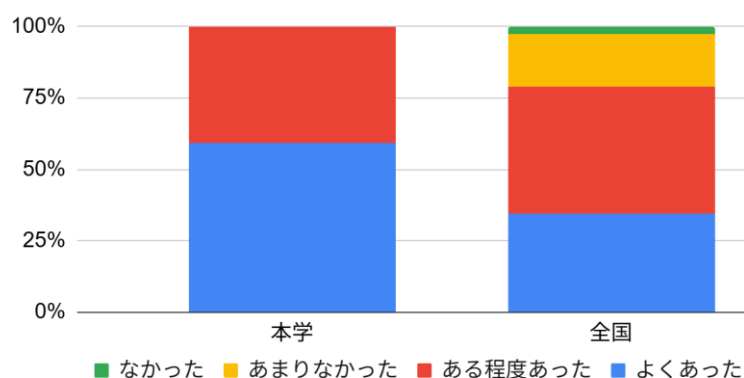
本学

よくあった：22.7% (+7.2pt)

ある程度：50.1%

合計：72.8% (+19.0pt)

グループワークやディスカッションの機会がある



全国

よくあった：34.6%

ある程度：44.2%

合計：78.8%

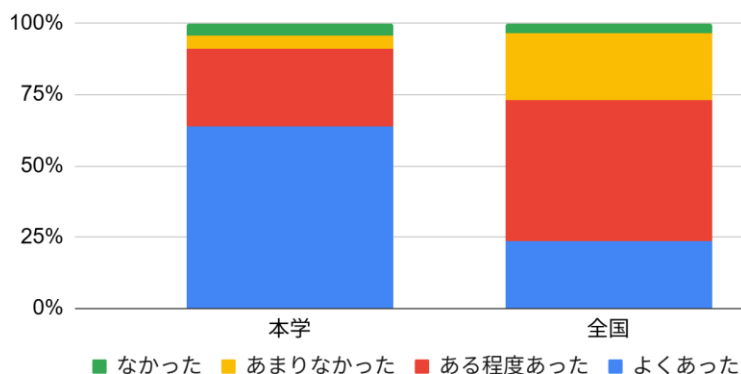
本学

よくあった：59.1% (+24.5pt)

ある程度：40.9%

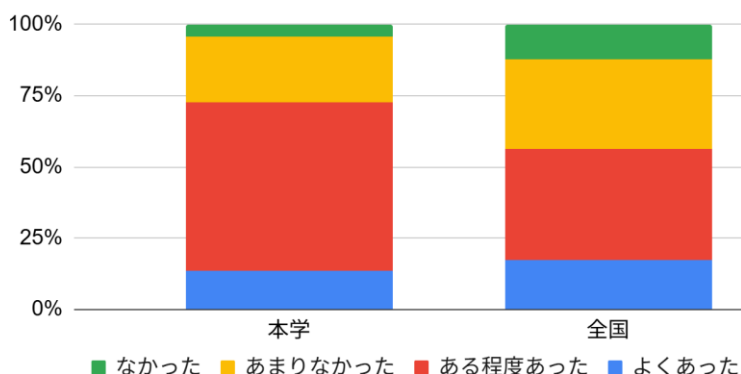
合計：100.0% (+21.2pt)

## 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある



全国  
よくあった：23.5%  
ある程度：49.5%  
合計：73.0%  
本学  
よくあった：63.7% (+40.2pt)  
ある程度：27.3%  
合計：91.0% (+18.0pt)

## ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある



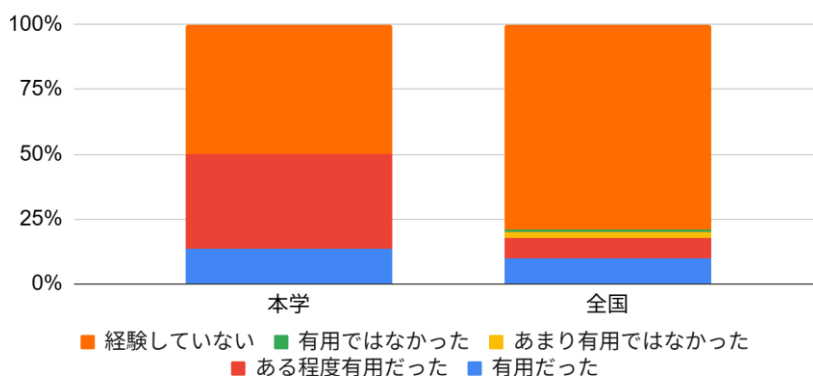
全国  
よくあった：17.3%  
ある程度：39.1%  
合計：56.4%  
本学  
よくあった：13.6% (-3.7pt)  
ある程度：59.2%  
合計：72.8% (+16.4pt)

## 総括

本学は「教え方の工夫」(全国比較：+5.5pt)、「グループワーク・ディスカッション」(全国比較：+21.2pt)、「質疑応答」(全国比較：+18.0pt)、「課題コメント」(全国比較：+19.0pt)の4項目で全国調査平均を上回り、参加型・双方向性の取り組みで優位性が顕著であった。これは、全授業を少人数で運営する本学の教育体制と、教員の関与の高さが授業内の相互作用や理解促進につながっていることを示すものである。一方で、授業外学修の指示(否定的評価：22.7%)、課題等コメントの返却(否定的評価：27.2%)の設問では否定的評価が約3割弱残っており、科目間での対応のばらつきが示唆されることから、シラバス等による授業外学修時間の指示およびレポート等学生へのフィードバックを徹底することで、学修者本位の教育が一層定着すると考えられる。

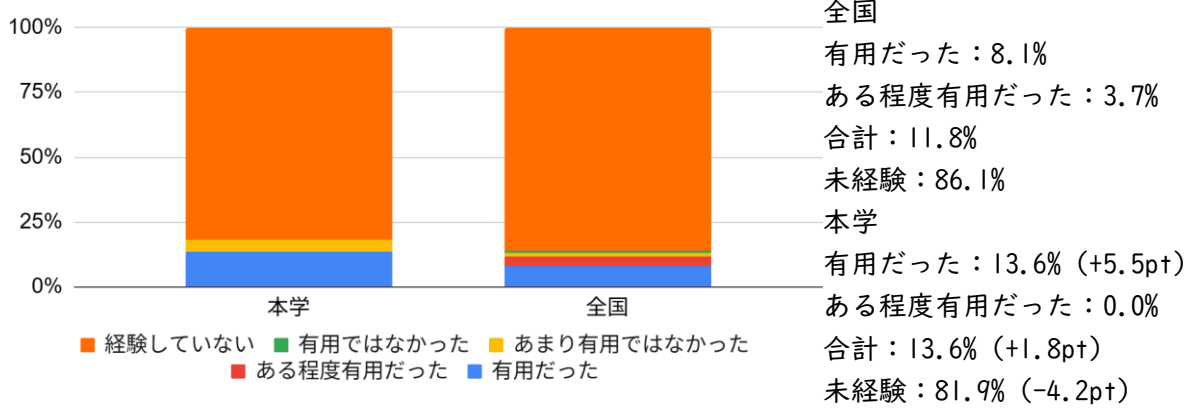
## ② TCUで経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか？

### インターンシップ (5日以上)

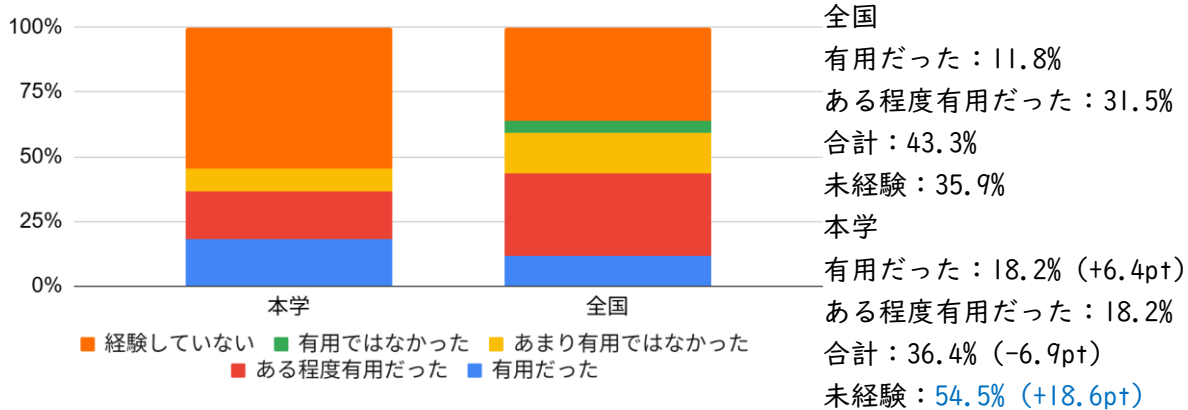


全国  
有用だった：10.0%  
ある程度有用だった：7.9%  
合計：17.9%  
未経験：79.0%  
本学  
有用だった：13.6% (+3.6pt)  
ある程度有用だった：36.4%  
合計：50.0% (+32.1pt)  
未経験：50.0% (-29.0pt)

### 海外留学・海外研修（短期も含む）



### 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）

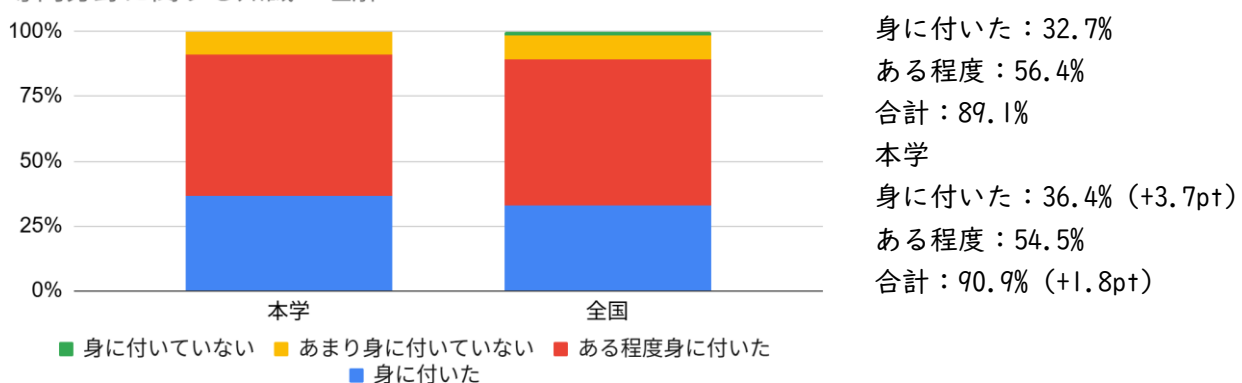


## 総括

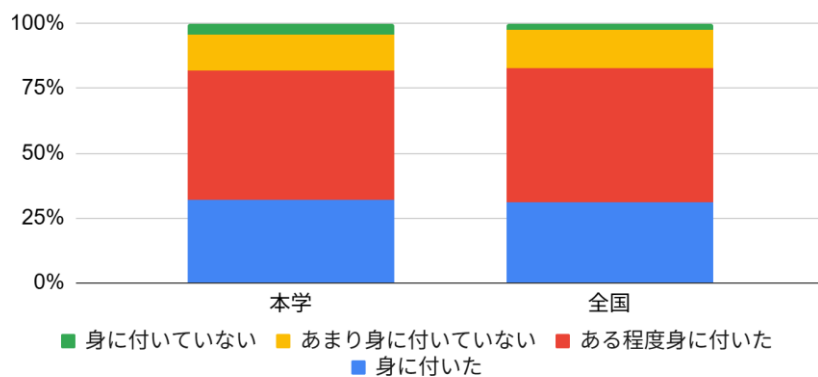
本学は、インターンシップにおいて有用性（全国比較：+32.1pt）、参加率（全国比較：+29.0pt）ともに全国を大きく上回った。これは、実践神学を掲げる本学において各専攻で実習（インターンシップ）科目を指定科目として位置づけるなど履修を積極的に促してきたこと、および担当科目教員による手厚い指導が寄与した結果と考えられる。海外留学・海外研修は概ね全国調査平均と変わらないが（全国比較：+1.8pt）、海外プログラムに参加する学生は少数（未経験：81.9%）にとどまっている。今後、海外プログラムを促進するためには、奨学金等の経済的サポートや事前の語学学習支援を整備し、参加のハードルを下げる仕組みが必要である。異なる言語科目の履修においては（日本語トラック生は英語科目履修、英語トラック生は日本語科目履修でいずれも語学以外）有用性（全国比較：-6.9pt）、参加率（全国比較：-18.6pt）が全国調査平均を下回った。異なる言語で行われる科目の履修率を高めるためには、海外プログラムとの接続や、TA等による授業サポートの充実を進めることが求められる。

### ③ TCUでの学びを通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか？

#### 専門分野に関する知識・理解



### 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観



#### 全国

身に付いた：31.0%

ある程度：51.7%

合計：82.7%

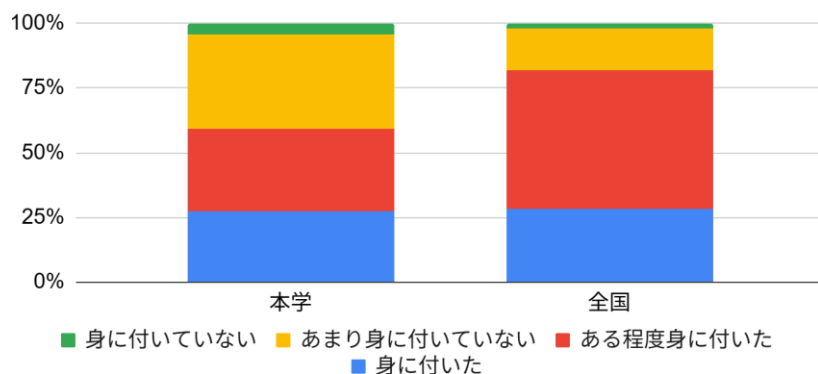
#### 本学

身に付いた：31.8% (+0.8pt)

ある程度：50.1%

合計：81.9% (-0.8pt)

### 文献・資料を収集・分析する力



#### 全国

身に付いた：28.5%

ある程度：53.4%

合計：81.9%

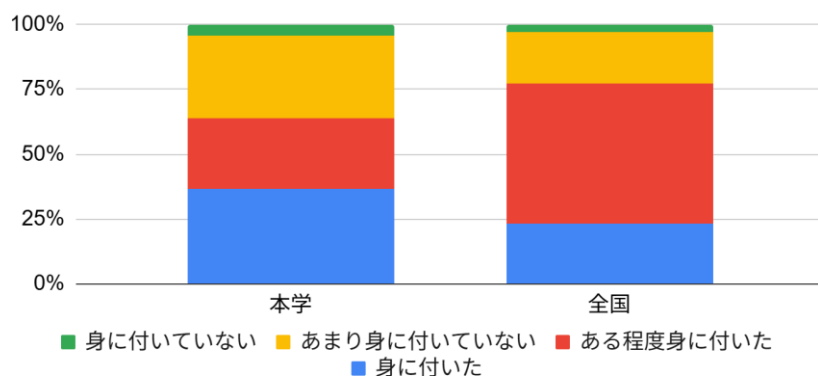
#### 本学

身に付いた：27.3% (-1.2pt)

ある程度：31.8% (-21.6pt)

合計：59.1% (-22.8pt)

### 論理的に文章を書く力



#### 全国

身に付いた：23.2%

ある程度：53.8%

合計：77.0%

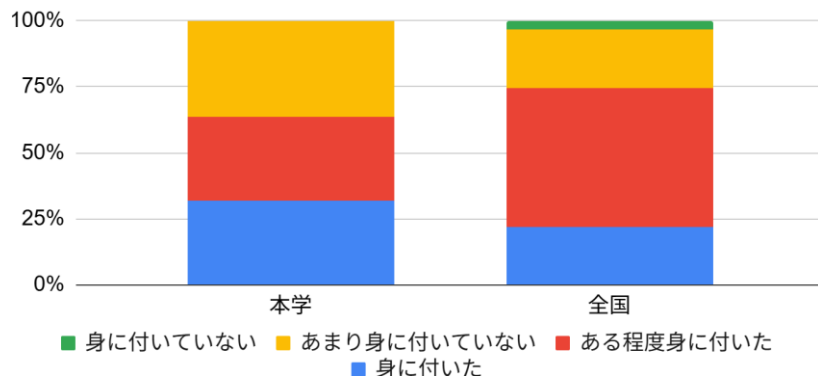
#### 本学

身に付いた：36.4% (+13.2pt)

ある程度：27.3% (-26.5pt)

合計：63.7% (-13.3pt)

### 人に分かりやすく話す力



#### 全国

身に付いた：21.7%

ある程度：52.7%

合計：74.4%

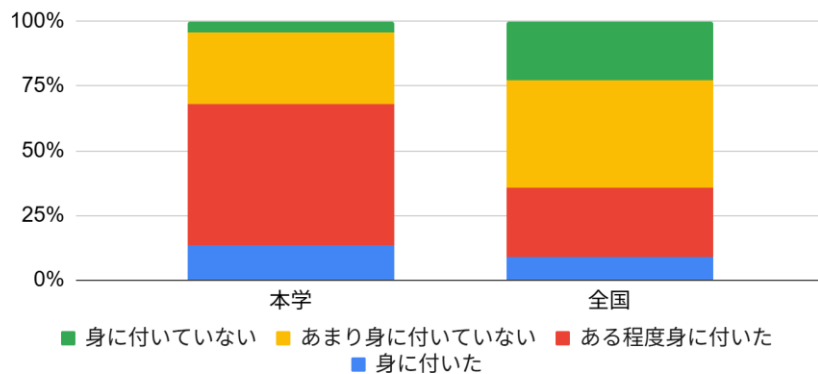
#### 本学

身に付いた：31.8% (+10.1pt)

ある程度：31.8% (-20.9pt)

合計：63.6% (-10.8pt)

## 外国語を使う力



## 全国

身に付いた：9.1%

ある程度：26.6%

合計：35.7%

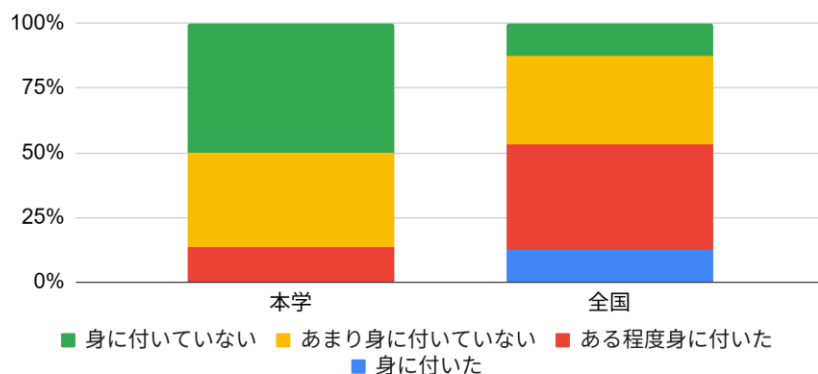
## 本学

身に付いた：13.6% (+4.5pt)

ある程度：54.6%

合計：68.2% (+32.5pt)

## 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能



## 全国

身に付いた：12.5%

ある程度：40.6%

合計：53.1%

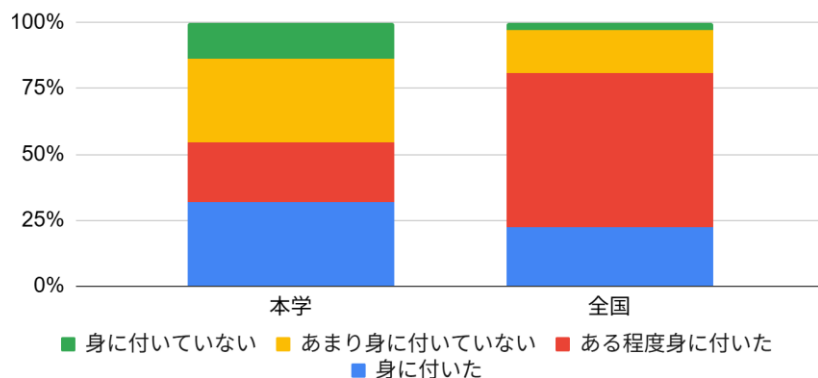
## 本学

身に付いた：0.0% (-12.5pt)

ある程度：13.6% (-27.0pt)

合計：13.6% (-39.5pt)

## 問題を見つけて解決方法を考える力



## 全国

身に付いた：22.4%

ある程度：58.5%

合計：80.9%

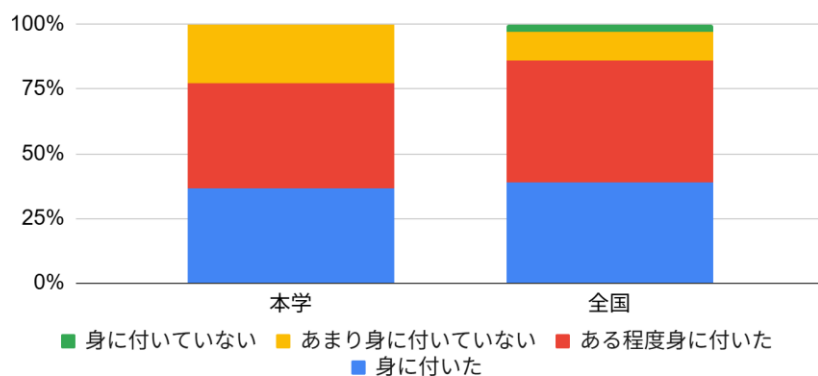
## 本学

身に付いた：31.8% (+9.4pt)

ある程度：22.7% (-35.8pt)

合計：54.5% (-26.4pt)

## 他者と協働する力



## 全国

身に付いた：39.1%

ある程度：47.0%

合計：86.1%

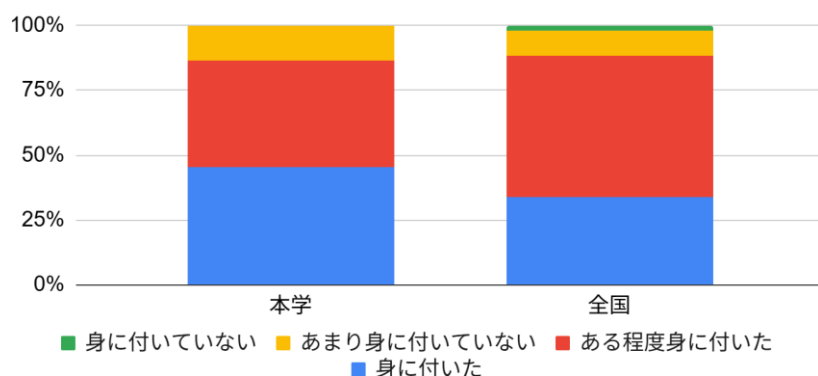
## 本学

身に付いた：36.4% (-2.7pt)

ある程度：40.9%

合計：77.3% (-8.8pt)

## 幅広い知識、ものの見方



## 全国

身に付いた：33.8%

ある程度：54.6%

合計：88.4%

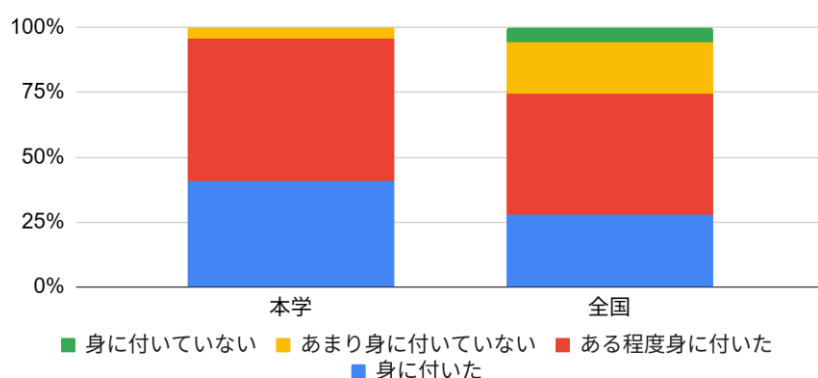
## 本学

身に付いた：45.5% (+11.7pt)

ある程度：40.9%

合計：86.4% (-2.0pt)

## 異なる文化に関する知識・理解



## 全国

身に付いた：27.7%

ある程度：46.8%

合計：74.5%

## 本学

身に付いた：40.9% (+13.2pt)

ある程度：54.6%

合計：95.5% (+21.0pt)

## 総括

本学は「外国語を使う力」（全国比較：+32.5pt）、「異なる文化に関する知識・理解」（全国比較：+21.0pt）で全国平均を大きく上回っており、異文化・他者理解を重視しグローバルを推進する本学の理念が、実際の学修成果として表れていることが確認できる。これは、日英トラックの学生が同一キャンパスで共に学び、寮で共同生活を送る教育環境に支えられた成果と考えられる。

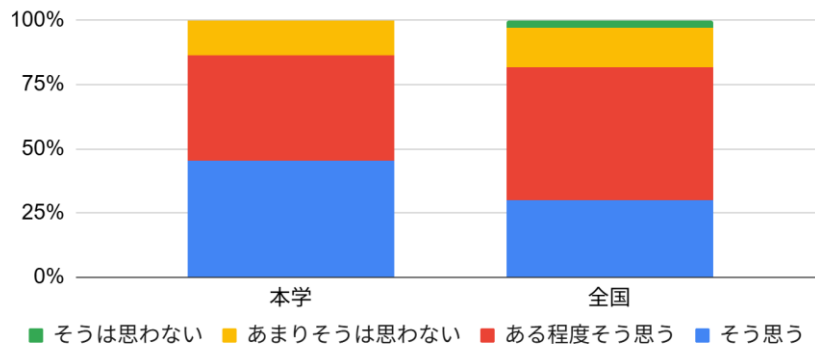
一方で、アカデミックスキルに関わる設問では、文献・資料の収集・分析（肯定的：59.1%、全国比較：-22.8pt）、論理的文章を書く力（肯定的：63.7%、全国比較：-13.3pt）、人に分かりやすく話す力（肯定的：63.6%、全国比較：-10.8pt）がいずれも肯定的評価は6割前後にとどまり、全国調査平均を下回っている。さらに、汎用的スキルに関わる設問でも、問題発見・解決（肯定的：54.5%、全国比較：-26.4pt）や数理・統計（肯定的：13.6%、全国比較：-39.5pt）において同様の課題が見られる。

他方、専門分野に関する知識・理解は肯定評価が90%を超えている。これらを併せて考えると、本学がDPで掲げる「神学の知識の応用力」や「人と社会に仕える実践力」において、実践的神学教育を一層高める余地があるといえる。その際、統合科目である演習・実習（インターンシップ）の役割は重要である。加えて、アカデミックスキルの底上げには、初年次教育のみでは定着が難しく、教育課程全体での継続的な指導が求められる。なお、アカデミックスキルおよび汎用的スキルの設問では「身に付いた」の比率が相対的に高い一方で「ある程度身に付いた」が低めに出ており、中間層の成長をいかに促すかも課題として挙げられる。



④ これまでの TCU での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか？

卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している



全国

そう思う：29.8%

ある程度そう思う：51.7%

合計：81.5%

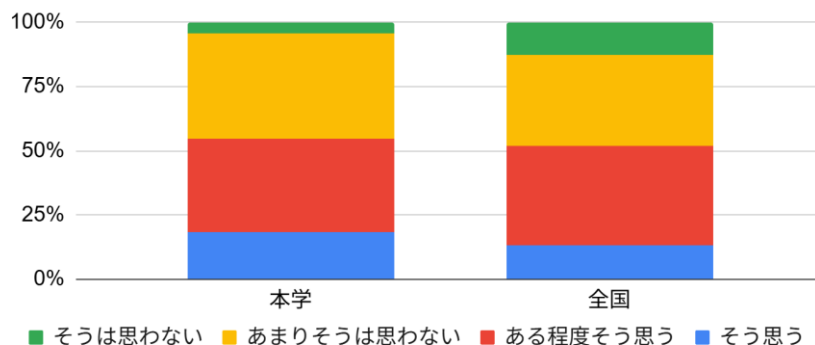
本学

そう思う：45.5% (+15.7pt)

ある程度そう思う：40.9% (-10.8pt)

合計：86.4% (+4.9pt)

授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている



全国

そう思う：13.0%

ある程度そう思う：38.7%

合計：51.7%

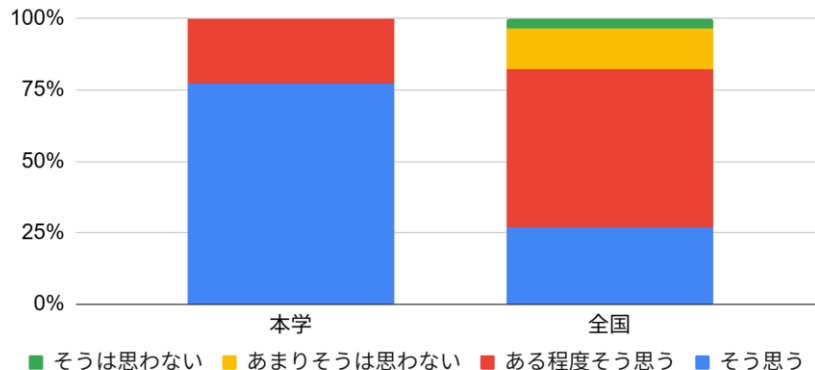
本学

そう思う：18.2% (+5.2pt)

ある程度そう思う：36.4% (-2.3pt)

合計：54.6% (+2.9pt)

教職員が熱心に教育に取り組んでいる



全国

そう思う：27.0%

ある程度そう思う：55.4%

合計：82.4%

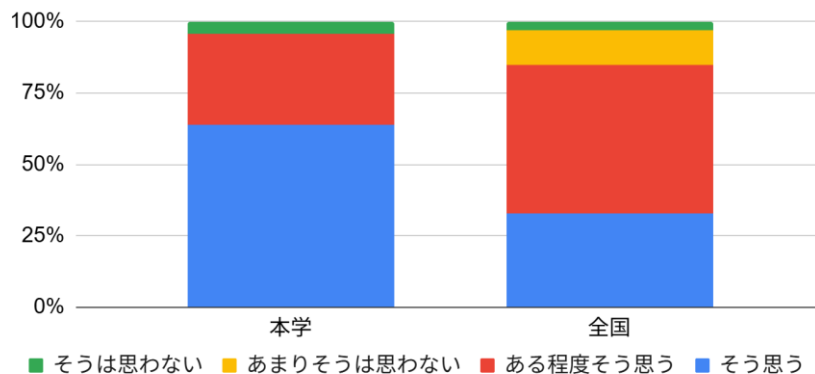
本学

そう思う：77.3% (+50.3pt)

ある程度そう思う：22.7% (-32.7pt)

合計：100.0% (+17.6pt)

大学の学びによって成長を実感している



全国

そう思う：32.9%

ある程度そう思う：52.0%

合計：84.9%

本学

そう思う：63.7% (+30.8pt)

ある程度そう思う：31.8% (-20.2pt)

合計：95.5% (+10.6pt)

## 総括

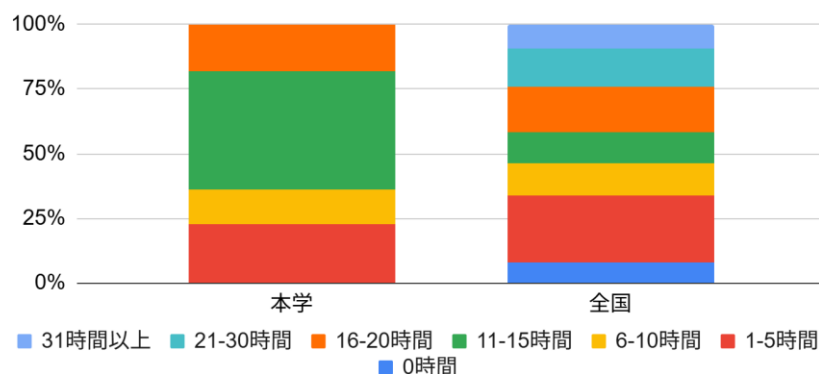
本学は「学修目標の意識化」(全国比較：+15.7pt)、「教職員の熱心さ」(全国比較：+50.3pt)、「成長実感」(全国比較：+30.8pt)の設問において「そう思う」の回答が全国調査平均を大きく上回り、少人数人格



教育・アクティブラーニング重視の指導が強く評価されている。一方で、学生の意見が教育改善に反映されている実感は二極化しており（否定的評価：45.4%）、アンケート結果を科目担当教員にフィードバックし、改善に結びつけるサイクルの運用を定着させ、アンケート後の改善内容・進捗の見える化を強化する余地がある。

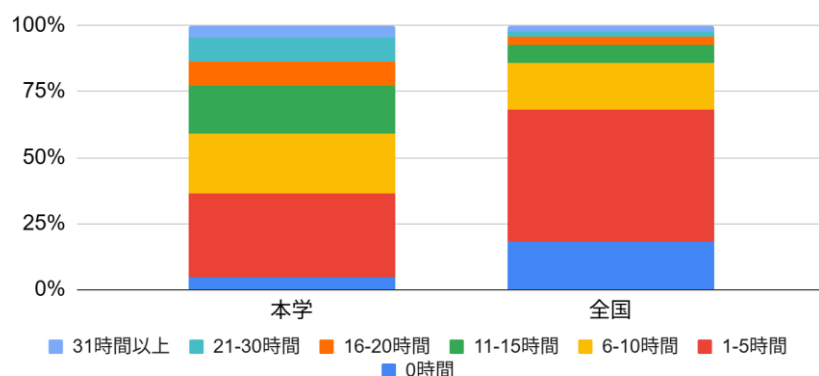
⑤ 春学期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれのく らいですか？

授業への出席（実習、オンライン授業を含む）



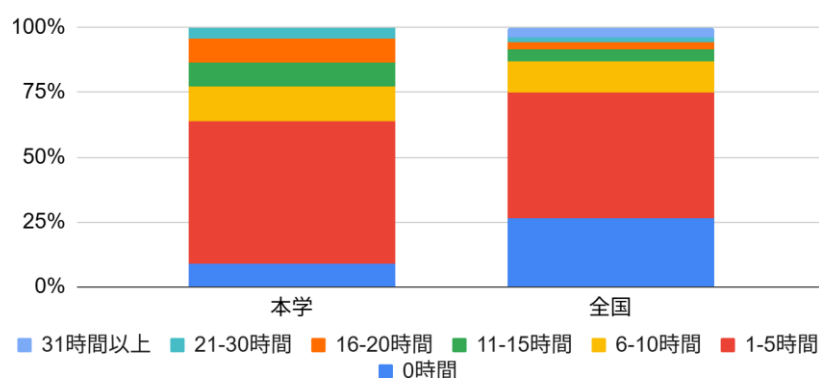
全国  
0時間：8.0%  
11時間以上：53.9%  
本学  
0時間：0% (-8.0pt)  
11時間以上：63.7% (+9.8pt)

予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）



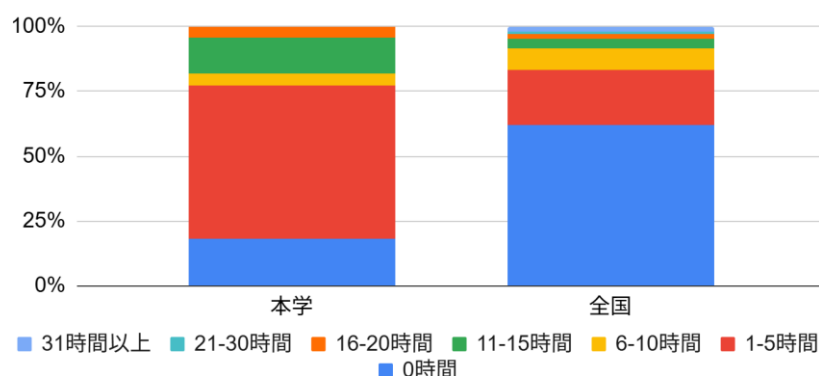
全国  
0時間：18.5%  
11時間以上：14.0%  
本学  
0時間：4.5% (-14.0pt)  
11時間以上 40.9% (+26.9pt)

授業と直接関係しない自主的な学習



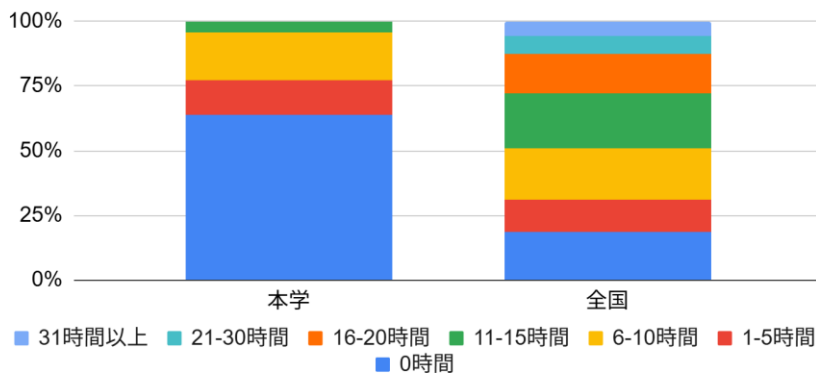
全国  
0時間：26.3%  
11時間以上：13.2%  
本学  
0時間：9.1% (-17.2pt)  
11時間以上 22.7% (+9.5pt)

委員会活動／サークル活動



全国  
0時間：62.1%  
6時間以上：16.7%  
本学  
0時間：18.2% (-43.9pt)  
6時間以上 22.6% (+5.9pt)

## アルバイト



## 全国

0 時間：18.4%

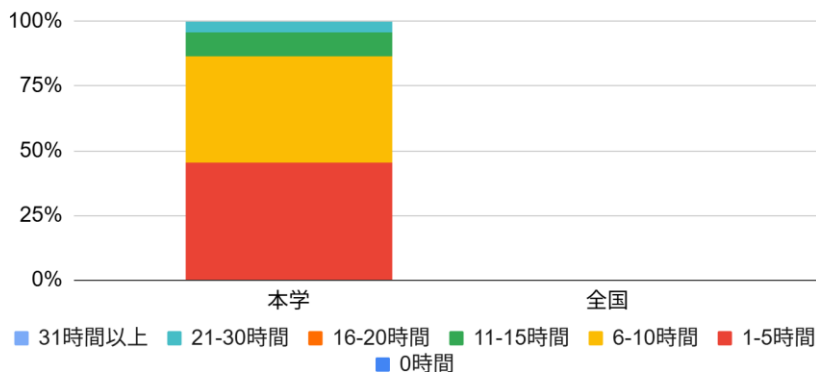
11 時間以上：49.2%

## 本学

0 時間：63.7% (+45.3pt)

11 時間以上：4.5% (-44.7pt)

## 教会奉仕



## 本学

1-5 時間：45.5%

6-10 時間：40.9%

11 時間以上：13.6%

## 総括

本学の学生は、授業出席（全国比較 0 時間：-8.0pt、11 時間以上：+9.8pt）、授業外学修（全国比較 0 時間：-14.0pt、11 時間以上：+26.9pt）、自主学習（全国比較 0 時間：-17.2pt、11 時間以上：+9.5pt）のいずれも、全国平均より学修に充てる時間が長い。さらに、委員会／サークル活動（全国比較 0 時間：-43.9pt、6 時間以上：+5.9pt）への参加率も非常に高く、本学独自の設問である教会奉仕の活動時間がここに加わる。一方で、アルバイトは（全国比較 0 時間：+45.3pt、11 時間以上：-44.7pt）と、アルバイトに時間を割く学生は少ない。これらの結果から、学生は時間資源を学修と学内外の教育的活動に優先配分しており、「授業内の高い出席率と、授業外での継続的学修」を基盤に、学内活動および教会奉仕を通じた実践的な学びが相互に補完し合う、本学特有の学修行動パターンが明確になった。なお、本学独自の設問では委員会活動や教会実習に負担を感じる学生も一定数確認されているため、科目中心の学修と活動を通じた実践的学修の時間配分について検証が必要である。

## 6. 参考資料

- ① 令和 6 年度（2024 年度）「全国学生調査（第 4 回試行実施）」の結果について

[https://www.mext.go.jp/content/20250930-koutou02-000001987\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250930-koutou02-000001987_1.pdf)